



写真1 血液浄化センター



写真3 血液浄化センタースタッフ



写真2 自家末梢血幹細胞を患肢投与している様子

を併発することが増加していますが、そのような患者さんを対象として自家末梢血幹細胞移植治療を行っています。

また、2015年4月から『LDLアフェレシスの重度尿蛋白を伴う糖尿病性腎症に対する多施設臨床試験』が先進医療Aを取得

するに至り、現在、糖尿病によるネフローゼ症候群の患者さんに対してLDLアフェレシス治療を行い、良好な結果を得つつあります。

特殊血液浄化療法は、年間約230症例850件以上の治療を施行しています。その内訳としては、ICUで施行しているCHDFの頻度が最も多く、次に多いのがLDLアフェレシス治療です。最近では不適合腎移植症例が増加しており、移植手術前の血漿交換療法や二重膜濾過血漿交換療法の頻度も増加しています。

コメディカルの活動

CLIの患者さんが増加傾向にあると先に述べましたが、早期にPADがあることをみつけ、CLIに至らないようにすることが肝要と考えており、フットケア指導士の資格を有する看護師が中心となり、積極的にフットケアに関して活動しています。白癬・巻き爪などの足病変とPADの有無に基づき、リスクを層別化した『鎌倉分類』を策定し、そのリスクに応じてケアの間隔と内容を決めてフットケアを行っています。それにより、新規足潰瘍発生件数が減少してきました。

また、常に管理栄養士が活動し、適切に指示を行うとともに、薬剤師も配置しています。

さらに、看護師と腎不全外科医師がバスキュラーアクセス(VA)チームをつくり、VAに関するスコアリングと定期的な回診を行っています。それにより、VAトラブルが減少してきました。

2015年4月から、リハビリテーション科の作業療法士・理学療法士とともに、透析前の運動療法も施行しています。